

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

12月18日から新燃岳火口直下を震源とする火山性地震が増加しています。

噴煙の状況や傾斜計の観測データに特段の変化は認められません。

新燃岳では、地震活動がやや高まっています。火山活動がさらに活発化する可能性がありますので、今後の情報に注意してください。

【防災上の警戒事項等】

活火山であることから、新燃岳火口内及び西側斜面の割れ目付近及び火口縁では、火山灰の噴出や火山ガス等に注意してください。

○ 活動概況（図1～2）

新燃岳では、12月18日から火口直下を震源とする火山性地震が増加しています。15日から本日（24日）17時までの10日間で240回発生しています。火山性微動は観測されていません。

これらの地震の増加に伴う地殻変動は認められていません。

監視カメラによる観測では、新燃岳の噴煙や火口及びその周辺の状況に特段の変化はありません。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

（<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>）

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、宮崎県及び鹿児島県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

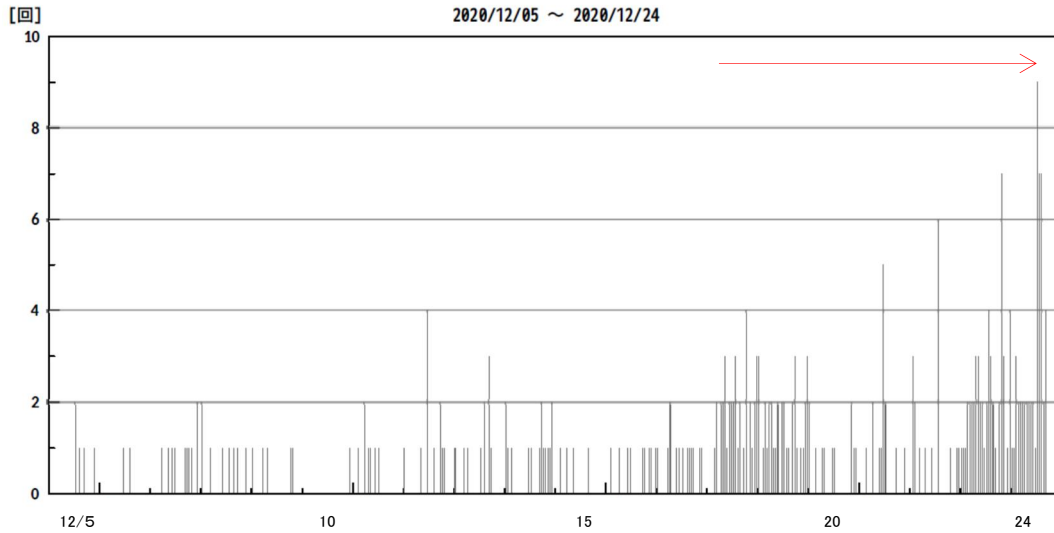


図1 霧島山（新燃岳） 火山性地震の時間別回数（2020年12月5日～24日17時）
新燃岳では、12月18日から火口直下を震源とする火山性地震が増加しています（赤矢印）。
15日から本日（24日）17時までの10日間で240回発生しています。

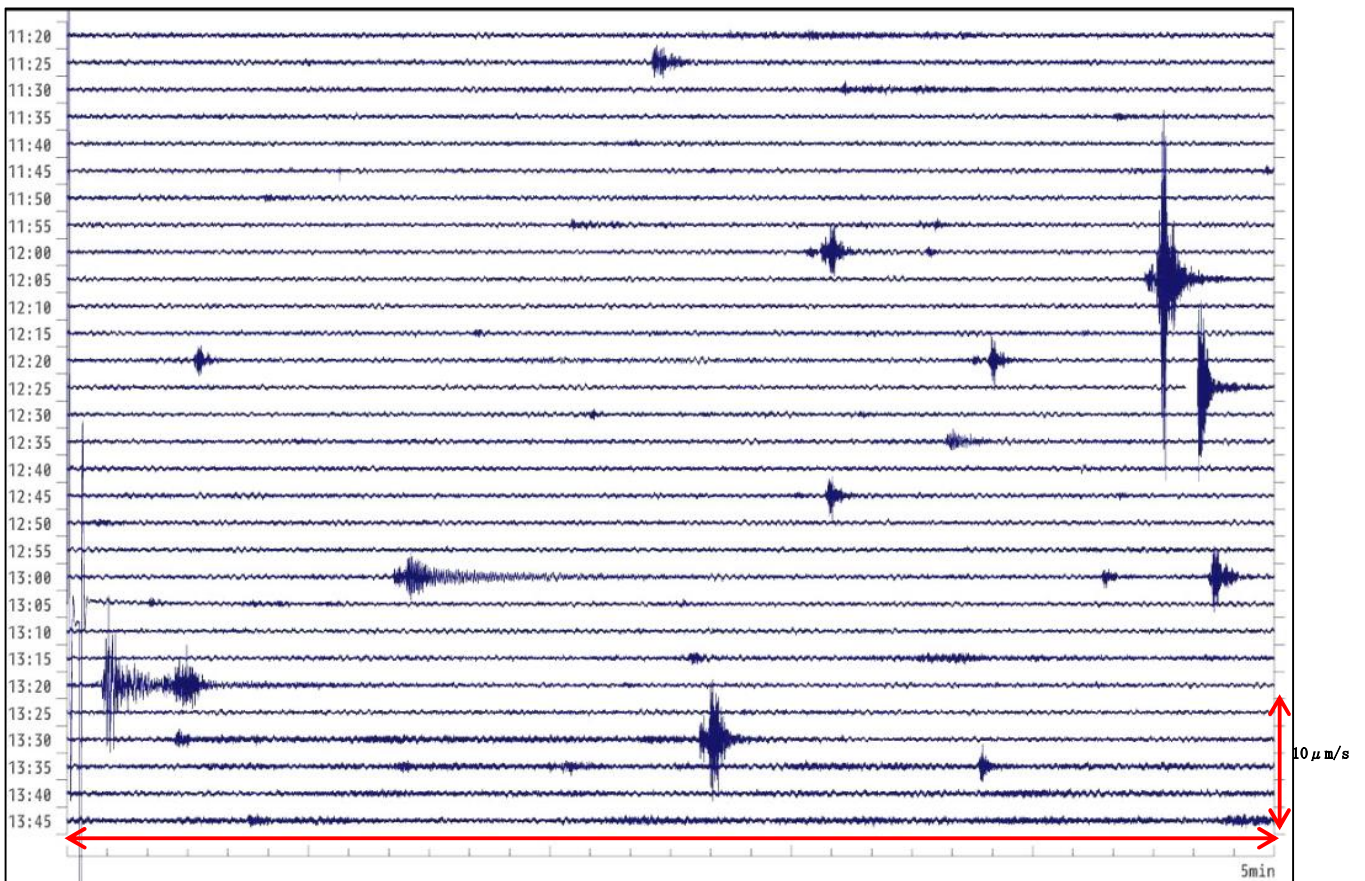


図2 霧島山（新燃岳） 火山性地震の発生状況
（新燃岳南西地震計における速度波形南北成分、2020年12月24日11時20分～13時50分）
新燃岳では、12月18日から火口直下を震源とする火山性地震が増加しています。

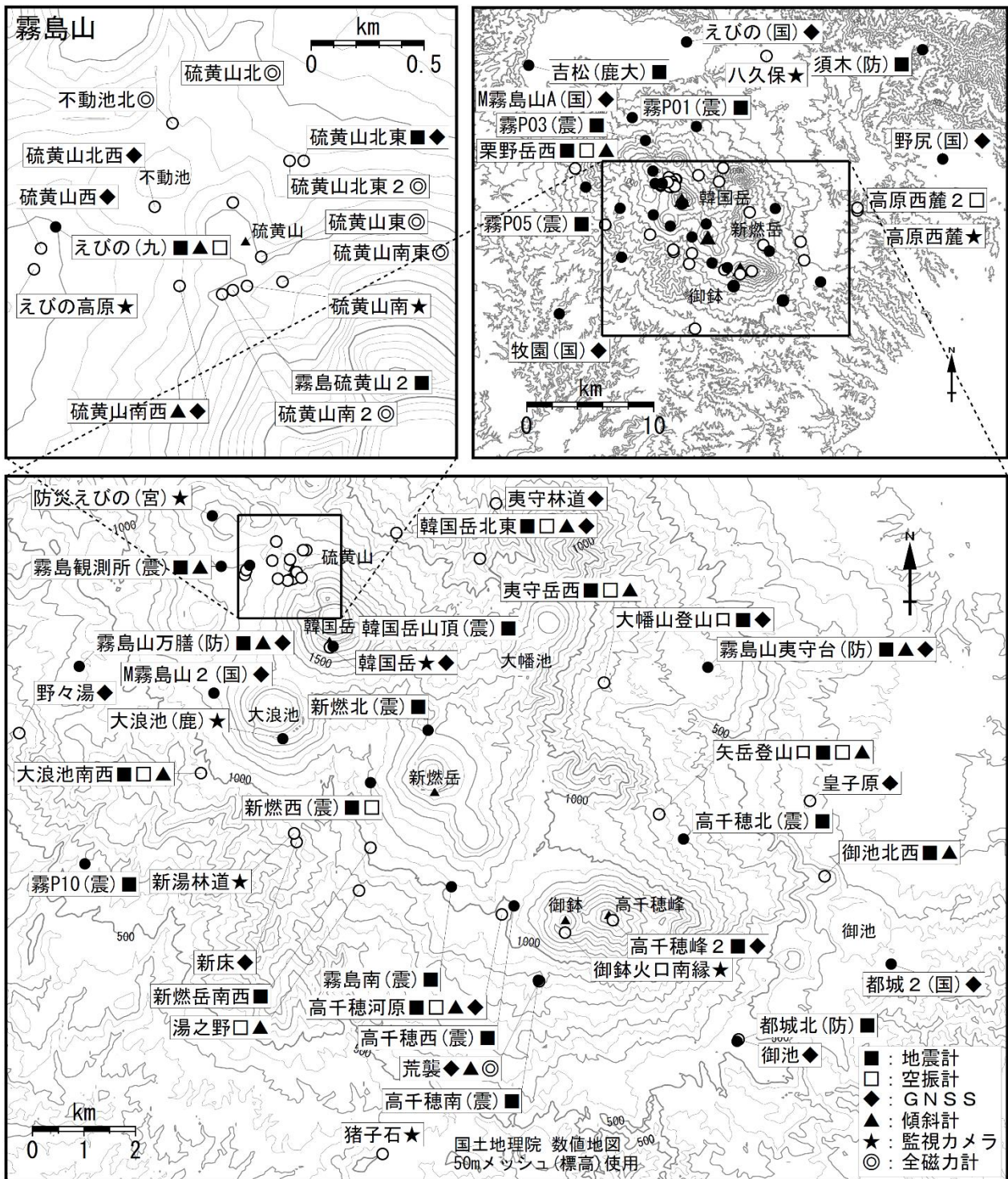


図3 霧島山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所
 (鹿大) : 鹿児島大学、(宮) : 宮崎県、(鹿) : 鹿児島県